

セリ不便リ



- 2021 - 2月号

おかげで、お造りなりの「か」日本中の生活が自南もミネリ化しつつ「年が過ぎた」こと「元気が出る」ような情報「少ない毎日ではありませぬ」が先日「致知」新春オンライン講演会に「参加」した。まだ先行きが「見えにくい」霧が立ちこめて、さうな因も思いつく中で「目が醒める」学びの時間と「なり」ました。第一講特別ゲストは「千玄室」氏「イグチ」茶道「衰々」家「前室元」「今」日「足」今も「精一杯」生きていると「懸」して、人生が「大事なもの」は「生理」勉強・身体的「機能」は「衰え」ても「手」帮「正」し、心「に」ゆたか「まり」を「持」たない。差別の無い「敬和」の心で「リス」ハートと「持」ち「吸収」する「柔軟」と「謙虚」に「前」向「ま」に「克服」して行く。特攻隊の生き残りとして「生」きまわります



梅花群鶴図

宮内庁三の丸尚蔵館名品選 梅花群鶴図(動植綵絵) 伊藤若冲 江戸時代(18世紀)

事に対峙「した」真の平和と祈りが世界の中にも「あ」る「世」の中に「あ」る「い」き「と」想「く」語「ら」れる「し」た。お茶について「は」抹茶の「緑」色は「茶碗」と「字」宇宙にある「地球」と「自」然「心」であり「感謝」して「味」ぬ「頂」く「ま」の「カ」チ「ヤ」ン「は」デ「ト」リスと「超」滑「舌」良「く」な「う」で「さら」に「元」気の「秘」訣は「夜」七「時」以「こ」うは「食」べ「可」い「夜」は八時に「就」寝。朝は四時「起床」：
うーん「お」ま「じ」の「時」分「か」ら「生」ま「ま」る「か」？
生きている「ま」の「ま」い「い」仙人「が」した。干利休の「遺」任子「か」ま「さ」る「ま」の「か」の「ま」か「した」。「三」冬「枯」木「花」・「和」心「向」冬も「あ」る「ご」いて「枯」れ「死」んだ「ま」う「に」見「え」て「も」木「は」花「を」咲「か」せる「準」備「を」して「ゆ」ら「か」せ「は」咲「く」の「ま」の「心」と「強」く「想」い「言葉」が「結」ば「れ」ました。第二講「ゲスト」大村智代「ノ」ベル「生」理学・医学賞「受」賞「お」た「雲」の上の「天」戈「と」思「い」ま「や」・夜間「高」校「の」教「師」を「経」て「研究」者「に」な「った」若「者」は「想」像「出」ま「ま」る。「甚」難「と」う「経」験「は」人「間」を「謙」虚「に」し「そ」こ「か」ら「な」へ「て」は「如」乎「さ」し「今」コ「ロ」ナ「禍」に「あ」る「て」「知」足「者」皆「無」「老」子「の」言「葉」か「ら」困難に「直」面「し」て「も」故「も」か「い」な「い」で「小」さ「い」心「にも」満「足」して「いく」心「の」習慣「を」お「め」られ「る」一番「の」マ「ン」ド「を」は「百」か「何」事「にも」丹「精」を「こ」めて「生」きて「る」を「語」られ「ま」した。お二人の先生の「ま」ま「ま」様「に」私も「無」駄「に」年「齢」を「垂」わ「て」は「中」の「ま」い「と」身「の」引「き」こ「み」を「精」進「に」心「を」強「く」も「そ」花「咲」く「ま」を「あ」えて「ま」ま「ま」ら「う」!!「感」謝「を」こ「め」て、



令和三年二月五日 松本ナチキ 様、

令和三年二月五日

松本ナチキ 様

敬目ス